

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## Reports : Creating and Introducing Rubric in the Basic Seminar A and B

|       |  |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2023-02-09<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 星野, 広和<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/00002139">https://doi.org/10.57529/00002139</a>                  |

# 基礎演習A・Bにおけるルーブリックの作成と授業導入に向けた取り組み

星野 広和

## 【要 旨】

本稿では、経済学部の中年次教育である基礎演習A・Bにおいて、ルーブリック（学習評価基準および学習到達度）を作成し、授業導入に向けた取り組みについて紹介する。ルーブリックは、経済学部が目指す教育方針・目指すべき学生像の状態に合うものを教員および学生の指標として設定したものであり、これを教員だけでなくFA（学生ファシリテーター&アドバイザー）にも共有することによって、授業の標準化と教育目標の徹底を図った。

## 【キーワード】

ルーブリック、FA制度、教育観の見える化、授業の標準化、教育目標の徹底

## 1. はじめに

本稿では、経済学部の中年次教育である基礎演習A・Bにおいて、ルーブリック（学習評価基準および学習到達度）を作成し、授業導入に向けた取り組みについて紹介する。ルーブリックは、経済学部が目指す教育方針・目指すべき学生像の状態に合うものを教員および学生の指標として設定したものであり、これを教員だけでなくFA（学生ファシリテーター&アドバイザー）にも共有することによって、授業の標準化と教育目標の徹底を図った。

## 2. 基礎演習A・Bの課題と平成30年度事業の概要

### （1）学生ファシリテーター配置授業

昨年度に引き続き、平成30年度の学部学修支援事業もまた経済学部のグループワーク形式授業、特に基礎演習A・Bの実施において、その教育効果を挙げるためにFA（学生ファシリテーター&アドバイザー）制度を活用している。現在、課題解決型授業（PBL）といわれるグループワーク形式の授業を実践する際にFAを各クラス1名ずつ配置し、学生の議論の活性化を促すとともに、学習支援も行うことを目的としている。対象となる授業科目は「基礎演習A」（1年前期）、「基礎演習B」（1年後期）、「経営学特論（ビジネスデザイン）」（2年前期）、「経営学特論（リーダーシップ）」（1年後期）、である。

### （2）基礎演習A・Bの課題

平成27年度から「アクティブラーニング形式」（以下AL型式と略）の授業トライアル

を導入し、平成28年度から全23クラスへ展開している。しかしながら、基礎演習A・Bの課題として、①基礎演習担当教員およびFAのスキルのバラつき、②教育ノウハウ（例えば、ファシリテーションスキル）の蓄積が不十分であること、③各クラスの運営におけるバラつき、が指摘されており、基礎演習全クラスの標準化および均質化には従前より課題があった。以上に加えて、④教員間でのゴール像や獲得ステップが不明確で共有されていないことも課題として挙げた。そこで、教員同士はもちろんであるが、FAとの共有を行い、学生への学習支援につなげていくことを図った。

### （3）平成30年度事業の概要

平成30年度の学部学修支援事業では、上記の課題の解決を図るために、平成29年度に経営学特論においてルーブリックの作成や教員研修を担当したand seeds社に業務活動を委託し、「教員を巻き込みながらルーブリックを作成するとともに、その導入と実行支援においてFAを関与させる」ことを目的とした。その内容は、以下の4点に集約される。①ルーブリックの作成支援（教員の教育観の見える化およびその共有、受講生が授業を通じて獲得すべきスキルの明確化）、②ルーブリックの授業導入支援（ルーブリックを活用する上でのルール作りと具体的な測定方法のトレーニング）、③AL型授業の学習法の改善・発展支援（ルーブリックの到達度合いを高められるよう教員に対して教授法を指導）、④ルーブリックの授業導入についてFAとの共有、である。これによって、学部共通の到達目標・評価基準の整備、アセスメントの構築を行った。

## 3. ルーブリック作成プロセスについて

### （1）ルーブリック作成プロセス

ルーブリックは経済学部のカリキュラムに従い、学部が目指す教育方針・目指す学生像の状態に合うものを教員および学生の指標として作成した。ルーブリック作成を通して、育てたい学生像やそのために身につける力（提供する知識や技術）の基準・状態を明確にし、その先に、①各自が重要だと思ふ状態目標を捉えて、学生の状況を把握することができる、②各自が重要だと思ふ状態目標を捉えて、自分の授業プロセスや内容を振り返ることができる、③自分の授業で発展させたい力を考え、授業デザインをすることができる、④共通認識を持ち、教員同士で議論できるようになる、ことで基礎演習に対する教員の認識、目指す成果を合わせて一枚岩として進むことが目標とされた。

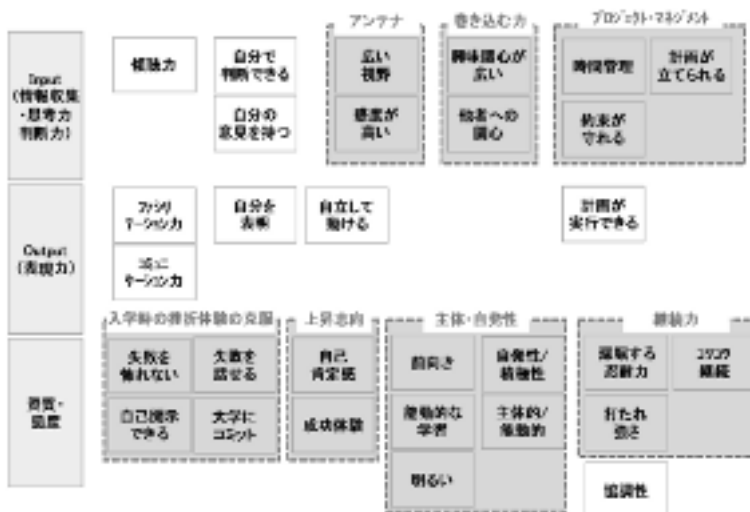
具体的な作成プロセスにおいては、①ビジョン・メイキング（個人・組織の教育観を明らかにし学部の核（共通価値や教育方針）を描く、②課題の明確化（教員の知識や経験を掘り起こし、育てたい学生像に向けての課題の明確化と、課題が求める具体的なスキルや知識を設定する）、③評価尺度・観点の設定（ルーブリックに用いる項目（状態目標）を具体化する。既成のルーブリックとの比較などから、学部オリジナルの方針を強化）、に

ついてand seeds社のサポートによって進められた。

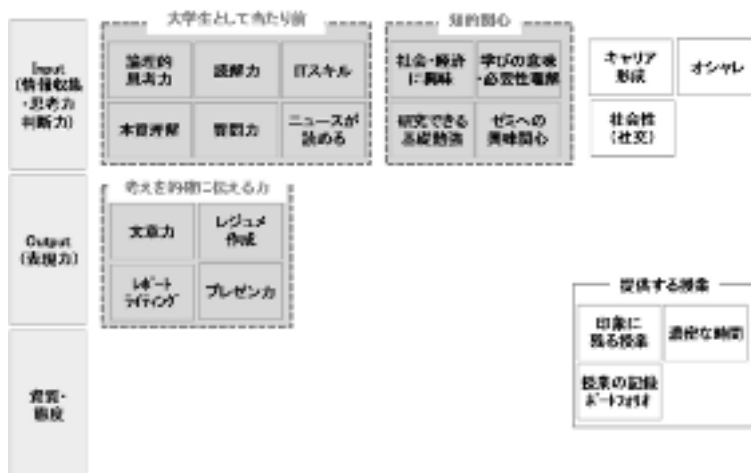
## (2) ルーブリック項目

そもそもルーブリックとは、「ある課題について、できるようになってもらいたい特定の事柄を配置するための道具であり、課題をいくつかの構成要素に分け、要素ごとに評価基準を満たすレベルを詳細に説明したもの」として捉えられる。まずは、ルーブリックにおけるビジョンづくりに関する第1回研修において、学生に身につけてほしい「ジェネリックスキル/態度」「アカデミックスキル/態度」を明確にするため、ブレインストーミングを行なった（図表1、2参照）。これを踏まえて、サポートチームが情報整理、言語化した。

図表1 身に付けて欲しいGenericスキル・態度



図表2 身に付けて欲しいAcademicスキル・態度



キーワードは、自主性・主体性、自信・自己肯定感、学習ができるような作法、学習習慣の定着、であった。

次に、ルーブリックのための課題の明確化に関する第2回研修会において、①基礎演習A・Bのルーブリックのコンピテンシー（理想とされる学生の状態）について、教員の知識や経験を棚卸してから育てたい学生像に向けての課題の明確化と課題が求めるスキル/知識を言語化し、②これまでの基礎演習A・Bにおける教員自身の行動や思考を俯瞰した。結果として6つの評価観点と3つの評価尺度からなるルーブリック項目が完成した（図表3、4参照）。評価観点としては、(1)「基礎的学習スキル」、(2)「コミュニケーション力」、(3)「思考力・判断力・表現力」、(4)「課題発見・解決力」、(5)「関心・問題意識の醸成」、(6)「目標設定の視座」を設定し、基礎演習A・Bでは多少評価観点と評価尺度においてウェイトと表現上の差異<sup>1</sup>を設けた。

図表3 ルーブリック（基礎演習A）

| No | 評価観点        | ウエイト | 評価尺度  |  |  |
|----|-------------|------|---|--|--|
|    |             |      | 基礎演習A   |  |  |
|    |             |      | 基幹学習  | 良(ベース)   | 優秀   |
| 1  | 基礎的学習スキル    | 25%  | 大学で学ぶ際に求められる、情報検索やレジュメ/レポート作成、プレゼンテーションのスキルに必要の理解が乏しく、用いることができない。 | 情報検索やレジュメ作成、レポート作成、プレゼンテーションのスキルについて、どの様に進めるのかが理解しており、一部できない部分もあるが、最低限用いることができる。 | 情報検索やレジュメ/レポート作成、プレゼンテーションのスキルについて、進め方をしっかりと理解し、学習の目的を明確に達成できる。                              |
| 2  | コミュニケーション力  | 20%  | ・他者に対して主体的に自分の意見を伝えたり、傾聴や質問といった働きかけができない。                         | ・他者に対して主体的に自分の意見を伝えたり、傾聴や質問を行いながら、適切なコミュニケーションができる。                              | ・意見が異なる他者に対しても主体的に自分の意見を伝えたり、傾聴や質問を行いながら、素直な言葉のやり取りだけでなく、裏読みしていない行動や、真摯にも向き合ったコミュニケーションができる。 |
| 3  | 思考力・判断力・表現力 | 20%  | 不正確な情報源に基づいており、しかも情報を整理・分析することができず、思考も表面的に過ぎ、上子く説明することができない。      | 情報のレベル感(知識)を意識して、情報を整理・分析し、まとめることができ、論理的に思考し、説明することができる。                         | 正確な情報源に基づいて、情報を整理・分析し、そこから結論や意味合いを見出すことができ、論理的な意思決定をしたり、説明したりすることができる。                       |
| 4  | 課題発見・解決力    | 15%  | 取り扱うべき課題とその原因を明確に特定できておらず、解決策を提案できない。                             | 取り扱うべき課題とその原因をましく理解し、論理的に矛盾のない、解決策を提案できている。                                      | 課題の原因について、より深く広く多面的に把握し、論理的に矛盾のない、効果的な解決策を提案できる。   |
| 5  | 関心・問題意識の醸成  | 10%  | 授業の内容や学習課題について、関心を持ってない。  | 授業の内容や学習課題について、自分なりに関心を持つ点を探し、取り組んでいる。   | 授業の範囲にとどまらず、自分の関心・問題意識に繋がるから、より深く広い学びに主体的に取り組んでいる。   |
| 6  | 目標設定の視座     | 10%  | 授業で設定されている目標を理解できておらず、達成しようという意欲を持ってない。                           | 授業で設定されている目標を理解し、達成することができる。   | 自分で目標設定ができ、授業で設定されている目標以上の成果を達成できる。  |

基礎演習Aでは、「大学の学びを深める上でどのような姿勢や態度、心構え、スキルが必要になるのかを知り、特に、一個人や1対1の関係性の観点から、それらの発揮の仕方を学ぶこと」が目標とされ、「基礎的学習スキル」「コミュニケーション力」といった、主にジェネリックスキル/態度に関するウエイトが高くなっている。

図表4 ルーブリック（基礎演習B）

| No | 評価観点        | ウエイト | 評価尺度   |   |  |
|----|-------------|------|--|---|--|
|    |             |      | 基礎演習B  |   |  |
|    |             |      | 実用言語   | 英(ベース)  | 漢字   |
| 1  | 基礎的学習スキル    | 15%  | 情報授業やレジュメレポート作成、プレゼンテーションのスキルにおいて、部分的に用いることができるが、全般的に理解が不足している。  | 情報授業やレジュメレポート作成、プレゼンテーションのスキルにおいて、基本方をしっかりと理解し、学習の目的を明確に達成できる。        | 情報授業やレジュメレポート作成、プレゼンテーションのスキル全般について、正確に、高いレベルでアウトプットを作成することができる。                     |
| 2  | コミュニケーション力  | 15%  | 相手の主張に耳を傾けることができず、自分の主張をうまく伝えることができず、チームとしてのコミュニケーションを築くことができない。 | 相手の主張に耳を傾けるとともに、自分の主張を適切な言葉で伝えるなど、チームワークを築くためのコミュニケーションを円滑に進めることができる。 | お互いが異なる相手の言葉に耳を傾けながらも、自分のアイデアや想いを適切に伝え、双方間のコミュニケーションを築き、チームワークを発揮して、最適な解を導き出すことができる。 |
| 3  | 思考力・判断力・表現力 | 20%  | チームメンバーで、お互いの意見を共有しながら、論理的に思考を深めたり、上手く説明することができない。               | チームメンバーでお互いの意見を共有しながら、情報を整理・分けし、情報の抜け漏れを確認しながら、論理的に思考し、説明することができる。    | チームメンバーで多面的に情報を整理・分類し、比較・検討を行うことで意見をまとめ(統合し)、より論理的な高い論理的な意思決定ができるとともに、上手く説明することができる。 |
| 4  | 課題発見・解決力    | 20%  | 授業で書かれた方法論やフレームワークを用いることができず、課題とその原因を整理したり、解決策を提案することができない。      | 授業で書かれた方法論やフレームワークを用いながら、課題とその原因を整理し、解決策を提案することができる。                  | 授業で書かれた方法論やフレームワークを用いながら視野を広げ、より多面的に、課題とその原因を整理し、解決策を提案することができる。                     |
| 5  | 関心・問題意識の醸成  | 20%  | 授業で学んだことと授業で起きている事象を繋げる視点を持てない。                                  | 授業で学んだことと授業で起きている事象を繋げる視点をもち、結びながら学んでいる。                              | 授業で学んだ事例にとどまらず、関連の領域で起きている社会的な事象についても、主体的に学びを広げている。                                  |
| 6  | 目標設定の視座     | 10%  | 授業で設定されている目標を理解できておらず、達成しようという意欲が持てない。                           | 授業で設定されている目標を理解し、達成することができる。  | 自分で目標設定ができ、授業で設定されている目標以上の成果を達成できる。  |

また、基礎演習Bでは、「基礎演習Aで学んだ、姿勢や態度、心構え、スキルについて、PBLを通じてグループワークの中での応用的に実践しながら学びを深めていくこと」が目標としており、ジェネリックスキルはもちろんであるが、よりアカデミックスキルへと結びつけるような「課題発見・解決力」「関心・問題意識の醸成」を高くしている。

## 4. ルーブリック導入プロセス

### (1) スクライビングによる授業プロセスの可視化

第3回の研修会において、ルーブリックを授業に導入するプロセスの一環としてスクライビングを行い、授業プロセスを可視化した。具体的には、①発表者が授業概要を発表し、別の先生が発表を聞きながら授業プロセスを整理、板書する、②実際の授業内容・プロセスと育つ力を紐付け、③授業でさらに育てたい力を考え、新たな可能性を探ったり、今後の授業のアプローチを考え授業をデザインしたりした。

### (2) ルーブリックの活用とリフレクション

第4回の研修会では、今期のルーブリック作成と導入に関する振り返りを通してルーブリックの価値や教育活動を俯瞰した。研修会に出された意見としては、以下のような点が挙げられる。

成果としては、「教員間で教育目標、教育方針が明確化（可視化）でき、共有された」「評

価視点の明確化により、(a) 学生にとって評価指標がクリアになり、学生に学習意図やゴールを意識させることで学びを促せるようになった(モチベーションが上がった学生もいた)、(b) 教員も成績がつけやすく、学生に評価観点からの学習を促進させることができた」「学生への問題意識の醸成ができた」「振り返りが苦手な学生が振り返りをしている様子が見えた」などが指摘された。

一方、課題や改善点としては、「通常授業時の活用方法が難しかった(各回の授業案とルーブリックの関連付けがうまくできなかった)」「具体的なルーブリックによる成績評価が困難だった」「グループワークが多くなる基礎演習の後半は個人の評価をするのが難しかった」「FAとのルーブリックの共有が薄かった」「アピールする学生がわかるが、そうでない学生を見きれない」「評価尺度(基準)における区別が曖昧になり評価に使いきれなかった」「度合いを示す言葉はもっと具体的な言葉に落ちていると使いやすい」などが指摘された。

## 5. おわりに

本稿を締めくくるにあたり、今後に向けた改善点を3点指摘しておきたい。第1に、今回の報告の結果にもとづいて次年度以降もモデル授業案やシラバスへ反映することであり、FAと教員相互によるルーブリックの授業導入とその後の課題についての情報共有が求められることである。第2に、FAと教員による事前打ち合わせの徹底である。ルーブリックはFA研修を通じて、事前に共有されているが、今回は教員主導でルーブリックの作成と導入を行った結果、FAとの細部に至る共有が困難だったと言わざるを得ない。第3に、そのためには今後も継続して、教員およびFAのファシリテーションスキルやコーチングスキルの向上も不可欠であり、これらは今後の学部FD活動へ展開することが重要であると思われる。

### <謝辞>

本稿を作成するにあたり、株式会社and seedsのレポート利用させていただいた。この場を借りて、衷心より感謝の念を表す次第である。もちろん、表現上の誤り等があれば、すべてそれは筆者の責任に帰す。

### 注

- 1 例えば、「コミュニケーション力」において、基礎演習Aでは「他者に対して主体的に関わること」を、基礎演習Bでは「チームワークを発揮するための主体的な関わり」を意識しており、「思考力・判断力・表現力」においては、基礎演習Aでは「個人として」、基礎演習Bでは「チームとして」の意味合いを持たせている。